

リスクアセスメント評価基準（例） — 安全編 —

1. リスクの見積り

リスクを見積もるための方法には、いくつかありますが、ここではその評価基準として、発生のおそれのある労働災害の「**重篤度**（災害の程度）」「**発生の可能性**（発生の確率）」「**危険性又は有害性に近づく頻度**」について点数化し、見積もります。

（1）重篤度（災害の程度）の見積り

表1-1 重篤度の区分と評価の点数（例）

重篤度	点数	災 害 の 程 度 ・ 内 容 の 目 安
致 命 傷	10	死亡、失明、手足の切断等の重篤災害
重 傷	6	骨折等長期療養が必要な休業災害及び障害が残るけが
軽 傷	3	上記以外の休業災害（医師による措置が必要なけが）
軽 微	1	表面的な傷害、軽い切り傷及び打撲傷（赤チン災害）

（2）発生の可能性（発生の確率）の見積り

表1-2 発生の可能性の区分と評価の点数（例）

可 能 性	点数	内 容 の 目 安
確 実 で あ る	6	かなりの注意力を高めていても災害になる。
可 能 性 が 高 い	4	通常の注意力では災害につながる。
可 能 性 が あ る	2	うっかりしていると災害になる。
ほ と ん ど な い	1	通常の状態では災害にならない。

（3）危険性又は有害性に近づく頻度の見積り

表1-3 危険性又は有害性に近づく頻度の区分と評価の点数（例）

頻 度	点数	内 容 の 目 安
頻 繁	4	毎日、頻繁に立ち入ったり接近したりする。
時 々	2	故障、修理・調整等で時々立ち入る。（1回／週～1回／月）
ほ と ん ど な い	1	立入り、接近することはめったにない。（1回／年程度）

（4）リスクの点数（リスクポイント）の算定

リスクの点数は、発生のおそれのある労働災害の重篤度と発生の可能性および危険性又は有害性に近づく頻度の組合せによるリスクの見積りを加算や乗算などで数値化したもので表します。ここでは加算により点数を求めます。

$$\left(\begin{array}{l} \text{リスクの点数（リスクポイント）} = \text{重篤度} + \text{可能性} + \text{頻度} \\ \text{（例）} \\ \text{リスクの点数（リスクポイント）} = 6 \text{（重傷）} + 2 \text{（可能性がある）} + 2 \text{（時々）} = 10 \end{array} \right)$$